第７１回　中部日本高等学校演劇大会　**生徒講評委員会講評文**

いなべ総合学園高校

「Liar Liar はなの演劇部」

２０１８．１２．２５　上演2

この劇は、大会直前でも遊んでばかりの演劇部員とその部員たちに怒りを覚える「まい」が本音をぶつけあって成長する劇である。

セットを舞台上で組み立てていく構成は観客を引き込んでいた。組み立てていく工程で多少のミスはあったが、装置は細やかに作られていて、完成度の高いものであった。照明について、夕焼けを表現することで、音響効果に頼らずに時間の経過を表現していた。また、劇中劇のピノキオが登場するシーンで魔法のような点滅する照明を用いていたりして、ゲネプロだから体育館に設置された照明器具を利用できることが窺えて、この劇の舞台が体育館の舞台上であることを有効に活用していた。音響に関しても、CD プレイヤーが置かれている方向から BGM が流れていて、より舞台に集中できた。

この遊んでばかりの演劇部員の態度には、「まい」と同様に我々も激しい怒りを感じた。また、知らないところでの我慢や努力に誰も気づいてくれない虚しさも感じた。「まい」が本音を漏らして各部員たちの態度に言及する場面では、最後に『あいりは…』と言葉を詰まらせていた。「あいり」は鋭い言葉で相手にものを言うところがある。それに対する不満を言いたいのに、その「あいり」と「まい」の対称性こそが、余計に「まい」から言葉を奪っている。「まい」の苦しみが鮮明に表れていた。それだけでなく、「あいり」が、大会で上演する公演の主役である「まい」のサブであるから感じる「まい」へのもどかしさを持っていることもよく窺えた。

終盤で「まい」はピノキオになりきって『おいらは人間になれた。』と言い、ピノキオの人形に向かって『お前も、それで良かったんだよね？』と言ってから自分の手で人形を頷かせる。この舞台の中盤の劇中劇ではピノキオは人間になるために努力することを拒絶して号泣していたため、このシーンは最後になって「まい」自身がピノキオの本当の気持ちを無理やり揉み消しているように思えた。これは、「まい」自身もピノキオと自分を重ねて『部員に嫌われることが怖くて、言いたいことを言えないけど、言えなくても良いんだよね？』と、無理やり自分の本音を飲み込んでいるように見える。それを示唆するように『Liar! Liar!』が流れたまま幕が下りた。「りこ」と本音で話し合ったことで、ほかの部員たちに対して不満をはっきり伝えることも必要だと気付かされたはずの「まい」が、言いたいことを言えない自分を肯定してしまったことに、疑問を感じざるを得なかった。いつか「まい」が自分の気持ちを打ち明けられる日が来ることを切に願うばかりである。

我々も、相手に嫌われることを恐れていないか自分自身に問いただし、自分の気持ちをしっかり伝えて話し合うことの大切さを今一度見直すべきだと考えさせられる劇であった。